

研究業績説明書

法人番号	77	法人名	熊本大学	学部・研究科等番号	学部・研究科等名	永青文庫研究センター
------	----	-----	------	-----------	----------	------------

1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】

本センターは、「永青文庫資料をはじめとする熊本藩関係資料の総合的な研究を通じて当該資料に立脚した拠点的研究を組織するとともに、文化行政機関等との連携によって地域文化振興に貢献する」ことを目的としており、熊本藩関係資料に基づく研究内容が、全国的に学術的影響力が高い成果であること、あるいは地域文化振興に資することが最も重要である。これらの判断基準のもと、学術・文化・社会・経済の面で意義深い研究業績を選定している。

2. 選定した研究業績

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ及び要旨【200字以内】	代表的な研究成果【最大3つまで】	学術的意義	社会、文化的意義、経済	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等)【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
1	3302	日本史	近世後期日本の所得分配と地域経済に関する数量的分析 永青文庫資料などの熊本藩関係資料の数量的分析に基づき、近世後期の地域経済の生産力を実態的に明らかにし、当該期における領主-百姓間の所得分配の推移と特質について論述した。	①高島正憲・深尾京司・今村直樹「成長とマクロ経済」、②今村直樹・中林真幸「所得と資産の分配」、③今村直樹「鉱工業生産の数量的接近」(いずれも、深尾京司・中村尚史・中林真幸編『岩波講座日本経済の歴史 第2巻 近世』[岩波書店、2017年8月]に収録)		S S	岩波講座は、日本の出版界における専門的内容を持つ叢書として著名であり、学術的に高い評価を受けている。①～③を収録した『岩波講座日本経済の歴史 第2巻 近世』の内容は、2017年10月2日付読売新聞で大々的に紹介され、その他にも同年9月24日付京都新聞、『経済セミナー』698(2017年9月)などの国内のメジャーなメディアで取り上げられている。また、①は大手通信教育・出版企業が作成する教材に使用されることが決定している。		
2			近世初期熊本城の被災修復と細川忠利 近世初期の自然災害(地震・大雨等)による熊本城の被災と、当主細川忠利による修復事業を明らかにした成果。永青文庫資料の分析から、領内における水利土木事業や、江戸幕府から命じられた江戸城建設との兼ね合いのもと、熊本城の修復がなされたことを論じている。	①後藤典子「細川忠利期における熊本城普請」(『熊本大学文学部附属永青文庫研究センター 年報』第8号、2017年3月)、②後藤典子『熊本城の被災修復と細川忠利』(熊本日日新聞社、2017年12月)		S	2016年4月の熊本地震を受けて始まった当該研究は、2016年6月6日付熊本日日新聞で取り上げられるなど、当初から注目を集めた。②は、2018年2月26日付熊本日日新聞および同4月15日付毎日新聞で書評が掲載されるなど、全国的にも大きな反響を呼んでいる。		